



第46号

目次

- よつこそ先輩 後輩の皆さん(1面〜5面) ● 大活躍のしらすぎ達
- 各支部だより(5面〜7面) ● 支部によっては、新しい試みも
- 母校の現在としらすぎ会(8面9面) ● 地域への具体的な貢献!
- 総会に続き、意見交換会(11面) ● やっぱり「絆」を確かめたい
- 総会の報告(12面〜10面) ● 代議員制導入2年目の総会を肅々と

しらすぎ会総会は
5月の第3土曜。従って次回は
2013年5月18日

よつこそ先輩 後輩の皆さん

「垣根の低い大学であるために」

しらすぎ会連絡先

- 事務局 (Fax・mailはいつでも)
Tel・Fax 088 (847) 5606
- 事務局員勤務 (去年と違います)
火・木・金の9時〜13時です。
- しらすぎ会のホームページは、
<http://www.u-kochi.ac.jp/~sirasagi/>
- しらすぎ会の mailは、
sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp

● 高知県から独立した公立大学法人となり、共学化にもなった私たちの母校の卒業生は、昭和24(1949)年3月の女専1回生21人の方々以来、一万人を超えました。歳月の流れには感慨深いものがあります。

地域でも職場でも、誇りをもって主体的に生きる多くの同窓生たちの姿は、お互い刺激し合い、より好ましい関係に発展しているのではないのでしょうか。

今号ではそんな皆さんの近況や来し方をレポートすることで、今後のそれぞれの活動にさらに活かしていただきたいと願いをこめました。同窓生にとって母校は、社会生活の原点でもあり、エネルギーの源ともいえるのではないのでしょうか。

そのような存在の母校の「今日と今後について」南裕子学長にまずコメントをいただきました。よくご存知の通り、南学長は高知女子大学衛生看護学科11回生で、2005年の日本人初！国際看護師協会会長就任はビッグニュースでしたし、池川順子先生に次ぐ同窓生で二人目の学長でもあり、数々の業績が書ききれない大先輩です。



『しらすぎ会 60周年記念誌』を手に、しらすぎ同窓生に講演中の南裕子学長

諸般ご心配をおかけしているかも知れませんが、母校は順調に定員が増え、受験生の倍率も極めて高い数字を出しています。さらに先生方の科研費採択率が極めて高く、教員のみならず

職員の力の大きさに改めて感謝しているところです。

大学の使命は大きく四つ、人材育成、社会貢献、国際交流、災害対策。法人化後の喫緊の課題として社会貢献と産官学連携の再構築が求められます。27年度に向けて永国寺キャンパスの整備が進むなか、「地域教育研究センター」構想は一つの核となり得るものと思っています。地域の人々に大きく開けた教育と研究の拠点として、五つの部会(共通教育、生涯学習、キャリア支援、産官学研究、地域課題研究の各部会)で、ますます「垣根の低い大学」を目指します。今後ともご支援ご協力をお願い致します。(談)

澤田智恵さん (国文学科1回生 昭和35年3月卒業)

戦争遺児の思いを後世に



高知市内の全小中学校へ寄贈した。これは高知市の松原和廣教育長に目録を謹呈し、歓談中



平和学習の一助として活用いただきたく謹呈した一宮東小学校で、これは漫画クラブの5年生6年生たちとのひとこま



叙事詩に思いをこめて

およそ40年に及ぶ教職生活に終止符を打ち、さてこれから余裕に満ちた生活を満喫できるぞと興奮したのも束の間、あつという間に中学校カウンセラー・法務省人権擁護委員・専門学校非常勤講師、さらには高知市教育委員長と矢継ぎ早に引き受けてしまっていた。「後悔先に立たず」の格言通り、現職時代以上の多忙との格闘の日々と相成ってしまった。しかし、決して強要された訳ではなく、熟慮して自分で決断し

たのであった。

いま、定年退職後の十余年を顧みたと、人生における一般社会のあらゆる事象に関する視点・観点の多様さとその重要性が、心揺さぶられるほど身にしみたのであった。教職という限られた枠のなかで、全身全霊で教育に打ち込んだと思いついたのは、幻だったのか。だが、この十余年で体得したことは、じつに40年の教職生活の意義にも匹敵すると思われるようになった。この思いがエネルギーとなって、平成23年10月15日、永年の反戦平和の思いを詩集『回り燈籠の絵のように』(文芸社)として発刊することが出来た。大学時代以来、創作活動だけは怠らなかつた。

戦争遺児の無念の涙

高知市内全部の小中学校(小学校43校、中学校19校)の図書室に寄贈し、平和教育の一助としていただくことになった。すでに、ある中学校の生徒会図書委員長からは「戦争を知らない私たちの強い参考資料となるので、全校図書委員会としても学習にとりあげていきたい」との返信もいただいた。元特攻兵だった平和活動家の講話会やテレビ放映等にも関わりのながら、戦争のころ、子どもだったために何も言葉に出来なかつた戦争遺児としての思いを、今こそ後世に伝えていきたいと切望する次第である。

グーグルでの学び

そのことが語るように、人事担当者が学生に必ずする質問に、「学生時代に自分の才能をどのように伸ばしてきましたか?」ということがありました。訪問させていただいた企業にはグーグルなど大きな企業もありましたが、これらの企業の成長を中小規模の時から支えてきたのは地元元学生達の日頃からの参画だそう。また、東京から鹿児島までのほとんどのデパ地下をひたすらに訪問した経験から、マーケティングやブランド戦略に関する仕事もしております。

肩書きを自在に使い分ける技



「イメージでどう伝え、どう訴えるか、人財育成も商品開発も、発信の仕方は常に大きなテーマになっている」

就職や進学への支援

現在、キャリア・コンサルタントとして学生の就職や進学の支援をしております。今年1月、勉強のため訪問したサンフランシスコでは、「どのような学生を採用したいか?」という私の質問に、グーグルをはじめ、訪問したすべての企業

「伝えるではなく、伝えることを旨として」

部国文学科の本領発揮です。

また、様々な業界で企業研修も開催しております。ビジネスマナー・ハラスメント・キャリアアップ等、企業のコンプライアンスに関する研修です。個人の価値観による「思い込み」は、周りの人のストレスになり、ミスを引き起こしたりしてしまいます。ここに気づいてもらうことも企業の風通しを良くする一つの方法です。母校の文学部では社会人基礎力養成セミナーなどの講師も務めさせていただいております。このように、仕事の内容は多岐に亘りますが、私の定義している「ブランドとは驚きと感動」を軸に、これからは「感動」を届けられるよう頑張りたいと思います。



果物の販売促進の戦略会議中

住民座談会に参加して感じることは、皆さんは自分の地域の地域が大好きで、「ずつとここで暮らしたい」「こんな地域になつたらいい」



事務所でパソコンに向かう美和子さん

住民座談会が終わって何ヵ月か経った頃、「地区で住民が集まってお花見した」「防災

い魅力を持っていますが、残念ながら全国的にはまだまだ知られておりません。しかも青果が出回る頃、農家は出荷に追われ、宣伝する時間が取れません。そこで土佐文旦の産直に取り組む農家の皆さんとともに、果実のない時期にも、その美味しさを広く知っていただくために、文旦飲料を作ろうということになりました。平成

「ずつと暮らしたい」を応援



毎日、この笑顔で地域に飛び出して行っています!と元気な小谷美和子さん。同窓会活動の力強い担い手に「成長」を遂げている(笑)

地域の話し合いに参加

私は現在、高知県社会福祉協議会で3年目の職員として、主に市町村社協の個別訪問支援や市町村社協向けの研修を実施しています。

住民活動に関わる喜び

住民座談会が終わって何ヵ月か経った頃、「地区で住民が集まってお花見した」「防災

土佐文旦と『ぶんぶん』を有名に

大森陽子さん (食物栄養学科5回生 昭和47年3月卒業)



仁淀川町社会福祉協議会との打ち合わせ。議論の音が聞こえてきそう

文旦飲料を作った理由

5月の連休頃になると、土佐市の山々は文旦の花の甘い香りに包まれます。また3月から4月の国道沿いのお店には、山のように積まれた文旦が目につきます。そうです。土佐市は日本一の土佐文旦の生産地なのです。

決めたことが今、地域でこんな活動になっていくという話を聞くことも嬉しいし、少しでも関わることができて良かったと思います。一方で、市町村社協を介して住民と関わるという役割に戸惑いを感じることもあります。すぐには解決できませんが、高知の山間部で育った自分の感覚と、大学で学んだ専門職の視点を大切に、役割を見つけていきたいと思えます。

高知県支部

待望！南学長ご講演



「高知県立大学の今そしてこれから」と題しご講演中の南裕子学長

史上最多のメダルを獲得した夏のオリンピックの少し前、6月23日に高知オリエンタルホテルで高知県支部総会を開催しました。今年例年と少し趣きを変えて中央地区の研修会と連携して行ないました。

学歌斉唱ののち、永尾朱美しらさぎ会会長にご来賓としてのご挨拶をいただき、その後、議事進行となりました。総会終了後は講演会、昨年度から学長の南裕子先生には日程調整をお願いしており、お忙しいなか、『高知県立大学の今そしてこれから』と題した演説で待望のご講演を拝聴しました。同窓生でもある南先生は私たちの誇りであり、そのお話は場所と時間を共有した者同志という感動を覚えました。

講演会ののち、中央地区活動の一環として家政学部食物栄養学科5回生大森陽子さんの「農家と共に作った土佐文旦ぶんぶん～土佐文旦の美味しさを全国へ」、生活科学部生活デザイン学科4回生たちの「土佐茶 CHARARA のブランド化と普及活動」の二題の発表がありました。どちらも試飲があり、大森さんの巧みな話術に引き込まれ、日頃なげなく食べている土佐文旦の知識を吸収できました。準会員の学生さんたちの発表は一所懸命さが伝わり胸が熱くなりました。

高知県支部は年会費を徴収していますが、年々その趣旨へのご理解が深まり、全会員への文書発送、総会のための費用、各地区の活動費等、色々な活動ができますことを衷心より深く感謝申し上げます。(支部長 坂野志津)



しらさぎ会各支部だより

弱音を吐いて共感してもらいたいという甘えからケイタイに電話すると、すぐに飛んできて、「わかる、わかる」と励ましてくださった。彼女は高知女子大学の教授を退官後、日本看護協会看護教育研究センターの長をされ、帰高後、高知学園短期大学の看護学科と専攻科を創られて、平成24年の春、本当に退職された。いま生き生きとライオンズクラブのボランティアや、我がしらさぎ会の役員をして下さっている。



●精神科看護の専門から、医療法人(当時)近森会で看護部全般をみる近森会看護部長兼近森病院総婦長に就任したのは1989年。2012年の今夏、看護部800人のトップ統括看護部長として、また社会医療法人近森会1,800人の常務理事として全体の運営に携わり忙しい毎日を送る。

1996年開院50年の近森会で看護部長として看護部507人のトップ8年目



く、大いにやり甲斐も感じる毎日だが、点滅信号を軽視しない注意深さを持つこと、それが今回の私の教訓である。

●平成24年度総会で提案され、次のように改正されることになりました。4月1日改正。第6条、庶務担当を「支部担当」に。第7条、任期は2力年とするを「任期は2力年とし再任を妨げない」に。第9条4、庶務担当理事は庶務に関する「支部担当理事は支部に関する」に。第10条2は(4)小委員会を置くことができる」と追加。それにより、現行「第10条2(4)その他の重要事項」の番号を繰り下げ「第10条2(5)その他の重要事項」へ。

会報編集委員紹介

●敬称略、順不同でご報告いたします。昨年からの委員は澤田智恵、坂本正子、竹内久恵、後藤圭子、谷本和香奈、大塚知子、大熊(上村)絵理奈の皆さん。本年は森和美(生活理学科22回生)が加わりました。

ことは、若い頃とは違った対処能力を必要とするので、身体から発せられる黄色い点滅信号を意識しなくてはならない。決して

く、大いにやり甲斐も感じる毎日だが、点滅信号を軽視しない注意深さを持つこと、それが今回の私の教訓である。

私はしらさぎ会の活動を通して、先輩や後輩と知り合い、何かの折にひよいとそその人の顔が浮かび、頼りたくなる。同窓生というものはそういうものではないだろうか。むろん、大学の発展や会員相互の親睦、企画・情報活動も大事だが、人と人が繋がるチャンスを与えられる場として、大事にしていきたい。

会則改正のお知らせ



●大学卒業以来、管理栄養士として土佐市民病院に勤めるなかで、暮らしを守るにはやはり政治の力が不可欠と観念し、発奮して政治の世界に挑戦。現在、土佐市議会議員二期目を務める大森さんの主張は一貫して、「憲法を守り、暮らしを第一に、子育て応援、庶民目線」。

『ぶんぶん』が旨い理由
しかし、加工には様々な工夫が必要でした。お鍋で炊いて手作りしたときは美味しくてできても、機械を通すと味がぼやけてしまうのです。原料の構成、製造工程の調整などを繰り返し、やっとやっと現在の味にたどり着くことができました。私たちの開発加工した文旦飲料『ぶんぶん』を飲んだ瞬間、お客さんが「こりゃあ美味い文旦や。文旦をそのまま食べようみたい」と言ってくたさるのが、私の一番幸せを感じる時です。
1本に文旦3Lサイズの大



11年のことです。

『ぶんぶん』が旨い理由

しかし、加工には様々な工夫が必要でした。お鍋で炊いて手作りしたときは美味しくてできても、機械を通すと味がぼやけてしまうのです。原料の構成、製造工程の調整などを繰り返し、やっとやっと現在の味にたどり着くことができました。私たちの開発加工した文旦飲料『ぶんぶん』を飲んだ瞬間、お客さんが「こりゃあ美味い文旦や。文旦をそのまま食べようみたい」と言ってくたさるのが、私の一番幸せを感じる時です。

『ぶんぶん』空を飛ぶ！ 夢は大きく日本中へ

開発を始めて13年目。果汁率15%、500cc1本400円の決して安くはない『ぶんぶん』が、県内の量販店にも並び始めました。店長さんから「他とは別物！」と、好評を得ております。そして昨年、『ぶんぶん』が全日空のバイヤーの方の目に止



収穫作業もむろん手伝う。実の入り具合はどうかなあ～

まり、今年1月から3月まで全ての国内線の飛行機に機内販売として積み込まれ、空を飛ぶことができました。こうして、母校で学んだことを、地域の特産品づくりに、生産農家の皆さんと共に力を合わせて、生かすことができました。ことをとても感謝しています。

点滅信号を軽視しない注意深さ

身の置き所のない苦痛
初っぱなから私事で恐縮だが、71歳まで現役で、お産と虫垂炎しか入院をしたことがなかったことが密かな自慢だった。ところが、この夏、「大動脈

解離症」という、大動脈の壁に亀裂が入り(血管壁が内膜と外膜とに裂ける)解離する病気になり、突然倒れてしまった。人工心肺を回しながら亀裂の入った大動脈を切除して、人工血管を挿入するという心臓の大手術を体験した。

血管の病気が全身の病ともいえた。身的置き所のない苦痛を味わった。結果的には一週間弱の入院で済んだが、そのなかで取りあえず目指す希望の星は、体験者の回復過程を聴くことだった。大先輩の看護学科5回生の山崎美恵子先生が2年前、病名は同じではなかったが同様の心臓手術を受けられていたことが頭に浮かんだ。

梶原和歌さん(看護学科10回生 昭和39年3月卒業)

「高知の果物の王様」と呼ばれる 文旦ブantan 早わかり事典

●ミカン科ミカン属の常緑低木。原産地は東南アジア辺りで、日本には江戸時代初期までには九州に伝わっていたらしい。
●土佐文旦の起源についての現在の定説。昭和4年(1929)4月に設置された朝倉農事試験地(高知大学朝倉キャンパスの西の山)に、高知県農事試験場園芸部の渡辺恒男さんが鹿児島島始良(あいら)郡加治木町の医師法元(ほうが)家の庭に植わっていた文旦の木をもらってきて、法元文旦のラベルで植えたのが始まりだそうだ。
●昭和16年(1941)、土佐市北原の高橋忠亀さんが小夏の日向夏、約100本に高接ぎし栽培。3年後に収穫し、北原農業会へ供出。昭和18年の春、土佐市宮ノ内在住の宮地文弥さんが苗木を県立朝倉試験地から分譲してもらって66本の植え付けを行ない、ここら辺りで「栽培の基礎ができた」といえるようだ。
●昭和24年、土佐市の文旦農家が、東京に向けて出荷を始めた際、産地がすぐ分かるように「土佐文旦」と名付けた。月日は流れ昭和34年、土佐市以外にも宿毛市や須崎市などで生産されていた文旦を「土佐文旦」と統一した。(※高知県農業改良普及協会発行の『土佐の文旦—文旦栽培50年—』、土佐文旦振興対策協議会の『土佐文旦辞典』や、小学館の『食材図典』などを参考に、しらさぎ会高知県支部総会の折の大森陽子さんのご講演内容をもとにまとめました。)

しらさぎ会各支部だより

広島県支部

秋にレトロな町で!

今年は支部会開催の年(第14回)。10月13日(土)に東広島市で行ないます。東広島市の西条はご存知のように、兵庫の灘、京都の伏見と並び称される銘醸地のひとつ。近年、秋に行なわれる酒まつりが有名で、二日間で20万人以上を集める一大イベントとなりました。その酒まつりの一週間後に、西条を訪ねます。ボランティアガイドさんに案内していただいて、酒蔵通りを歩きましょう。レトロな赤レンガの煙突と、なまこ壁が連なるまち並みは、豊かな歴史を感じさせてくれます。愛飲家も、そうでない方も楽しめる西条・酒蔵通り。高知弁のお喋りも交えながら、ゆったり散策しましょう。

皆様のところには、既に、ご案内の葉書が届いていることと思います。御返事をよろしく願いいたします。また、**広島県内へ転入、県外へ転出された方をご存知の方は、書き添えていただきますと、たいへん助かります。**

(支部長 田中めぐみ)

東海支部

遅まきながら(笑)



「年にいちど顔を合わせる懐かしい仲間!」東海支部の総会は温かな雰囲気と和気藹々で行なわれます。

定年退職する私はこの会の幹事を引き受けました。今まで殆ど参加したこともないのにです。なぜか。学んだ年月はバラバラなのに「永国寺の校舎」といえば、同じイメージがわき、体験を共有できるからです。

それがいかに貴重なものか、遅まきながらわかってきました。高知を大事にしたい、新しい仲間も増えてほしいと願っています。(幹事 山本 真理子)

山口県支部



小ささを活かして

2年にいちどの支部会を昨年11月、**山口市の菜香亭で開催**。国体等色々な行事と重なったけれど、恩師今西一實先生にもご参加いただき、あっという間に時間が過ぎてしまいました。今西先生は周防大島町にお住まいで、しらさぎ会員として今後ご出席くださいます。次回は来年ですが、先生とお話してみませんか。多数のご参加をお待ちしています。

本年度新入会員5名を含め70名弱ですが、小ささを活かし、しらさぎ会総会の代議員は皆が交替で出席します。新しくなった母校や高知の様子を確かめ、支部会で感想を発表し合い輪を広げていきたいと思っています。高知は遠いですが、総会出席が母校を訪れるきっかけになればと思います。(支部長 樋田公子)

岡山県支部

「女子力」を実感



支部再結成準備会から一年を経た今年(8月26日)、岡山県全体に呼びかけた同窓会が実現できたのは、永原美知子支部長様、本部の宮田福先生や山崎美恵子先生、県内の諸先輩など、色々な皆様のご協力のおかげです。「女子力」の力強さを感じます。今後も定期的に集まる予定です。会では、福先生に大学の現状と、夏バテで弱った身体を回復させるコツなど身体や健康、栄養のことなど多岐に亘るお話を承り、元気をいっぱい戴きました。先輩方は皆さん、バイタリティに溢れ、圧倒される感じです(笑)。同窓会は爽やかな高知の風を思い出し、絆の有難さを改めて教えられる場だと実感します。なお**2013年は8月25日(日)11時半~「メルパルク岡山内レストランミザール」(今回と同じ)。**会費約2千円予定です。(久保さとみ)

京阪神支部

錦秋の京都で親睦を!

平成24年11月10日(土)11時30分~14時
ホテルグランヴィア京都(JR京都駅ビル内)

京阪神支部は近畿2府4県、会員八百余名の大きな支部です。本年の活動は、
①5月19日=本部でのしらさぎ会総会に、代議員2名出席。
②11月10日=支部総会親睦会の開催。

2年ごとに行なっている支部総会親睦会は支部の最も大きな活動であり、会員の楽しい交流の機会となっています。

今年はアクセスの良いJR京都駅ビル内のホテルで、生活科学部の堀内和美先生をお迎えして開催します。総会親睦会と併せ、紅葉美しい京都の散策などいかがでしょうか。支部会員の方はもちろん、他支部のご友人等、誘い合っただけの参加も大歓迎です。会費は9千円。皆様と共に楽しいひとときをぜひ!そして、しらさぎ会の絆をより深いものにできればと願っております。

(支部役員 高橋睦美)

徳島県支部

2012.11.10(土)11時半~ムッシュ藤田クレメント店

初めてしらさぎ会徳島支部総会に参加してから、はや10年以上が経ち、感慨深く振り返っています。大先輩の方々にまじって若輩者の私が役員を続けてこられたのは、何といたって役員の方々の先輩方のパワーとエネルギーに惹きつけられ、元気をもらってきたからです。また、総会では職種も世代も全く違う出席者の方々が、ひとたび同じ学歌を歌うと、懐かしい高知の地と青春時代に思いを馳せ、ひとつになれる不思議がありました。

今年も総会開催の年です。日常を束の間離れて、優雅なランチに舌鼓を打ちながら、大いに語り合しましょう。今年こそは!お気軽にお越し下さい。**会費4,000円**、お待ちしております。(支部役員 田村千恵子)

香川県支部



大学の現況を説明中山重慶副会長

同窓生を繋ぐ唯一の会

しらさぎ会香川支部総会を平成23年11月13日に高松国際ホテルで開催。会員26名出席、山重慶副会長の臨席を賜り、会務報告、会計報告、近況報告等、ユーモアを交えて和やかな雰囲気の中行なわれました。山重副会長からは高知県立大学の現況についてご説明いただき(上の写真)、21世紀を展望し、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学を目指していることをお聞きして、将来への展望が開けたような気持ちになりました。親睦会は季節感溢れる料理をいただきながら、現状報告や大学時代の思い出をお聞きして、有意義な時間を過ごすことができました。

しらさぎ会香川支部は**同窓生を繋ぐ唯一の会**です。参加できなかった方々には香川支部会定期総会の報告を24年1月にいたしました。先輩の役員の方々がずっと続けてこられた総会の報告を、同窓生の絆を深めるために継続していきたいと思っています。次回は平成25年11月に高松市で開催予定。連絡を取りながら、皆様のご参加をお願い致します。(支部長 嶋村洋子)

九州支部

若い会員さんも参加♡ばんざい



平成23年11月27日に太宰府で開催。本部より永尾朱美会長にご参加いただき、15名の集まりに。県立

大学へ移行後のようすをお聞きすることができました。長崎より若い会員の参加があり皆とても嬉しい気分になり楽しく過ごしました。近くの太宰府天満宮や寺、国立博物館などを散策し、紅葉の秋を満喫しました。

次回は25年です。長崎や、新幹線の開通で近くなった鹿児島への希望が出ています。地元でやりたい方があれば計画できますので大分や宮崎の方もご連絡をお願いします。☎ Fax 096(338)9661 支部長 宮川麗子

愛媛県支部



夢?

高知女子大学で過ごした4年間を共有するだけで懐かしさや親しみを感じる同窓生。年に一度たつぷりとその懐かしさに浸ることができるのが同窓会しらさぎの集いです。入学したのは女子だけの学びの場としての雰囲気への憧れでした。ずっと共学の学校だったので、はじめ少し違和感がありましたが、まとまりやすく気兼ねもない環境で存分に交友を深め、学生時代を満喫することができました。

先日ある音楽大学の同窓会コンサートに誘われていってきました。客席は一般の方や卒業生、学生さんなどたくさんの方でした。活躍している卒業生の演奏が続き、最後は演奏家としても有名な教授の演奏がありました。演奏の素晴らしさはもちろん、その音楽大学の良さが浮き彫りになってきました。

私たちの大学もこのように卒業生や一般の人に向けての講演会や開放講座を開催して大学のアピールをすればいいと思います。高校生たちの大学選びの役に立つことでしょうか。最近、看護大学、看護学科が増えているというニュースも聞きました。

南学長の講演ならきつとたくさんの方が聞きたいと思うことでしょうか。そのほか講師は大学の先生や高知女子大にゆかりのある方や各地で活躍している卒業生の方をお願いしてユニークな講演会を企画し、大学のPRができればと思います。

講演会の後しらさぎの集いを開催すれば、もっとたくさんの卒業生が集まるのではないかと夢みてみました。真夏の夜の夢でしょうか?(支部長 門田洋子)

母校の現在と・同窓会しらさぎ会の活動

●永国寺キャンパスは社会貢献のための「知の拠点」へ

社会貢献の拠点としての機能充実

- ①産学官連携や地域連携の取り組み強化。
- ②小中学校への出前講座や体験授業の実施。
- ③研究会やシンポジウムに利用できるように、施設を開放。
- ④「地域教育研究センター」を社会人教育、生涯学習、社会貢献機能充実のため整備。

働きながら学ぶ拠点

- ①文化学部を設置する「夜間主コース」では、社会人が4年間、土日や夜間に学び、学士取得できるようにします。
- ②社会人教育、生涯教育の拠点として、「短期の学び」の場ができます。
- ③実務能力向上のための講座、看護・福祉の講座、資格取得支援の講座を開講します。

極めて具体的な地域貢献のための知の拠点

文化学部を拡充

- ①定員80人→150人へ
- ②学べる領域が広がります。例「地域と文化」「法と文化」「観光と文化」

高知工科大学の

社会科学系学部を設置

- ①入学定員200人
- ②高知の産業振興や地域経済の活性化に貢献できる人材を育成します。
- ③経済、経営の幅広い知識や、地域政策、経済学の先進的な分野が学べます。

●高知県公立大学法人設立記念式典・祝賀会がH24年2月23日、開催されました。(城西館で計350人参加、盛大に)



第一部式典は、62年前、昭和24年4月の高知女子大学開学以来、三度の大改革を経て平成23年には設置者が高知県公立大学法人となったことなど、南理事長よりまず開式の式辞。中西哲県議会議長並びに板原啓文土佐市長の来賓ご祝辞に続き、尾崎県知事は「課題先進県の高知で、その課題解決の要にあるのが大学の在り方」だとし、「地元の子がこういふ大学で学びたい」と

思ってくれるような大学になって欲しい」とエールを送られた。近藤誠一文化庁長官からは「大震災、日本の文化、そして大学の役割」と題された講演。休憩を挟み、「高知県立大学賞」を受賞した生活デザイン学科三回生による「土佐茶ブランド化への取り組み」についてのプレゼンテーション。一部の締め括り「私が大学に期待すること」と題する卒業生トークでは、梶原和歌さん(看護学科昭和39年卒)、坂本ひとみさん(国文学科昭和63年卒)、小谷美和子さん(社会福祉学科平成22年卒)たちが、「大学時代の学びをいかにどう活かすか、大学に何を期待するか」などについて語り合った。

第二部祝賀会では、来賓祝辞を高知大学の相良祐輔学長が述べられ、永尾しらさぎ会長もそれに続いた。マンドリン部の演奏やグロウ・カルクラブによるよさこい演舞で法人設立を和やかに祝い、閉会挨拶を高知県公立大学法人山本邦義経営審議会委員が務められ、盛会裡に終了。

●しらさぎ会で学生の交通費援助

昨年は生活デザイン学科3回生の社会人基礎力育成グランプリ2012決勝大会への参加の交通費援助



「社会人基礎力」は、経済産業省が2006年に提唱した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力のことです。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の三つの能力で構成されると考えられています。これが大学賞に輝いた皆さんです。

びたかを競う「育成グランプリ2012」の決勝大会(東京)で、土佐茶のブランド化に取り組んでいる生活デザイン学科3回生が会場特別賞に輝いた(2画面)。全国の取り扱い事業者の間で評価は高いにも拘わらず、ブレンド茶の原料として約7割が使われていた土佐茶。2007年から環境整備を含めこの土佐茶を研究対象としてきた生活科学部井本研究室の、極めて具体的な地域貢献といえ、この過程でしらさぎ会や会員の公文睦子さんは可能な協力を続けてきた。

●本年は、東日本大震災復興支援ボランティアへ学生参加のための交通費援助をしています。

●内閣府主催の広域搬送訓練を 高知医療センターと合同で実施

●大正12年(1923)年9月1日の11時58分に神奈川県相模湾沖を震源として発生した関東大震災から89年を経た本年の9月1日、東海から九州沖を震源域とする「南海トラフ巨大地震」を想定した広域訓練が、県立大池キャンパスでも実施された。津波避難ビルに指定されている

池キャンパスでは、医療センターへの搬送や、歩ける避難民の受け入れと、トリアージ(容態による選別)が行なわれた。午前中は池地区の住民も訓練に参加し、医療センターと県立大合同の訓練や炊き出し、午後からは陸上自衛隊普通寺駐屯地からのヘリ搬送訓練も行なわれ



池キャンパスの自衛隊

リーダー通信

計報

■2011年10月10日ご逝去。池川順子先生(平成27、平成8年高知女子大学学長。女専英文科1回生。昭和25年ご卒業。ご冥福を心からお祈り致します。

大学祭へのお誘い

●10月27日(土)～28日(日)池キャンパスで大学祭「紅葉祭」を開催。27日(土)18時半から特設ステージで、生活デザイン学科4回生による最後のファッションショーを計画しています。ぜひ見て下さい。

た。参加者からは「日頃の訓練の大きさが実感できた」とも。大学からは南学長はじめ教職員と学生で235人が参加した。体育館で反省会

高知女子大学発祥の地の

記念を皆さんと共に!

ご意見を頂戴したいです。

しらさぎ会
第二十二代会長

永尾 朱美



南裕子学長からは、進化発展を続ける母校の今と将来に向けてご講演もいただいておりますように、地域で果たす母校の役割が大きくなり、大きくなればなるほど、同窓会に期待される役割も増えるのでは、と考えます。

①27年度に向けて変貌を遂げる永国寺キャンパスについて、「大学発祥の地」記念をどう残せるのか、同窓会としても検討する必要があります。ご意見等、ぜひお寄せください。

②総会は代議員制にはなりましたが、一般の同窓生の皆さんには大勢オブザーバーでご参加いただきたいです。

③会報では多くの同窓生に今後もご登場いただきたいです。役割が發揮できればと思います。ご意見等、ください。

④学生さんたちの「活動支援」にも今後しらさぎ会としての役割が發揮できればと思います。ご意見等、ください。母校も変動の大きい大変な時期を迎えておりますが、お互いの繋がり大切にしながら、新しい大学像を目指す母校の発展に寄与できればと願います。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

第三部 意見交換会 が総会に引き続いて行なわれた。



住所変更の連絡先

関東支部：支部会で母校に誇りを持っているとしみじみ思った。支部名簿を作成しているが、本部から送られてくる住所と支部の住所の違いを他の支部ではどうしているかを聞きたい。

香川支部：住所変更があった時、どこに連絡するかどこかに書かれているのか？

広島支部：本部からの住所で支部住所録を作っている。**彼末理事：**これまでは会報に住所変更した場合はしらさぎ会にも連絡してもらおうよう書いていた。卒業時に住所変更があったときは同窓会にも連絡するよう案内している。ただし、本部の住所録には新卒者は帰省先の住所で登録している。就職先の場合、住所不明になりやすく、不明になると新しい住所がわからず、住所不明のままになってしまふ例が多いため。支部の分類も実家の住所なので、支部会の案内が届いても本人がそこに住んでない場合がある。もどかしいところではある。

返事がなくても便りは出し続ける！
東海支部：出席者は10~15人で顔ぶれは同じ。案内を出しても返事がない人が多数いる。でも出すことを辞めてしまうと縁が切れるので出し続けなければいけないと。**京阪神支部：**学科のローテーションで役員がまわってくる。年齢の上の人が多くなり、若い人に参加してほしい。広域のため、支部会は交通の便のよい大阪や京都の中心地が多い。かつては、住所録を作ったこともあるが住所は本部のデータを基にしている。ナマで聞かないとわからないこともあるので会に出席してよかった。後輩の活躍している姿も聞けてよかった。

広島支部：今年は東広島で開催予定。案内の中に知っている人があれば教えて欲しいなど書いておく。知ったなら本部に連絡してあげればと思う。名簿は作っているが印刷は一枚だけで会の参加者に回覧で見てもらっている。

できるだけ多く同窓生を掲載したい
広島支部：ところで、会報への推薦者は、いわば「どの程度の活躍」をしている人を指している？
坂本理事：個人の考えですが、「活躍」というより、いかに主体的に生きられているかという基準で推薦戴けたら。**広島支部：**推薦した人の記事は誰が書くのか？

坂本理事：ご本人に書いていただくのか、取材記事になるかは私個人では判断できないが、まずはご本人と話をさせていただいてから決めることになると思う。**高知県支部：**高知県支部では一人は本人の了解を得て推薦、あと一人は本人に連絡せず推薦した。推薦された人と会報担当者が直接交渉すると理解しています。**坂本理事：**人物情報を得るために「メールをもっと活用

【出席者】 ●顧問 橋尾直和先生**●代議員** 佐々木佐恵子(関東支部)、山本真理子(東海支部)、高橋睦美(京阪神支部)、小山智子(京阪神支部)、田中めぐみ(広島支部)、岡村志津枝(山口支部)、永原美智子(岡山支部)、嶋村洋子(香川支部)、岸田佐智(徳島支部)、門田洋子(愛媛支部)、西岡美智子(高知県支部)、吉村ハル子(高知県支部)、別役茂子(高知県支部)、桑原豊子(高知県支部)、原絢子(高知県支部)、橋田奈津(高知県支部)、坂野志津(高知県支部)、黒河満智子(九州支部) ●**理事** 永尾朱美、山重慶、津野真千子、中澤寿美子、鶴田和子、坂本美和、岡村悦子、西谷抄希子、川口順子、中岡道子、彼末富貴 ●**監事** 久保慶子 ●**オブザーバー** 平岩博子(岡山支部)、玉木道子(香川支部) ●**事務局** 山川真弓

する」というご意見は、とても参考になりました。**岡山支部：**40年前に立ち上げたが、立ち消えになっていた同窓会を、今年8月に総会として開催予定。支部会費をどう集めているか、ご教示いただきたい。

香川支部：総会時に千円を2年分として集めている。総会開催後、会の報告を振込用紙を同封して欠席者に送るようにしている。

高知県支部：年会費千円、年々納入者は増えている。3千通のうち50通は住所不明等で返送される。

九州支部：懇親会費+αを集めるだけで、特に支部会費は集めていない。あと、次年度はぜひ池キャンパスで総会を開いて欲しい。

近況報告プラスαの同窓会に期待する

徳島支部：2年にいちど、昼食会の支部会を開く(11月頃)。30~40人が参加。参加すると、しらさぎの精神を感じる。同窓会を大事にすることが、自分たち自身一人一人の存在を誇りに思い、大学の発展をうれしく思うことだと考える。同窓会の意義を卒業時、意識づけできるようにしてゆく必要があるのかなとも思う。

山口支部：支部会は2年にいちど。会長、代議員は原則、年齢順で。ただ集まって近況を話すだけでは長続きしないのではないか。会自体をどうしたものかと思案中。

高知県支部：年にいちど支部総会を行ない、教養講座も行なっている。これが同窓会活動の+αでは。今年は6月23日、南学長のご講演「高知県立大学の今とこれから」を県民にも開放予定。

参加者を増やす工夫

香川支部：会では席順を工夫し、親睦が図れるように努めている。

高知県支部：個人としての意見だが代議員を決めるのは苦労。支部総会の席で決めるべきことと思っているので、急に欠席者が出たときに困るし、もっと出席したい人がいた場合、オブザーバーとして出席してもらっても居づらい雰囲気か昨年あった。

会長：総会では、議決権はないが、できるだけ大勢にご参加いただき、意見交換もしていただきたい。

高知県支部：ただし、若い時は仕事と家庭のことで大変で、参加が難しいのは仕方ないとも思う。自分もそうだった。**九州支部：**香川支部のように欠席者に会の様子を送ることを検討したい。参加増に繋がるかも知れない。

津野副会長：本年はケーキも席も十分に準備していました(笑)。来年はぜひ大勢おいでください。

顧問橋尾先生：皆さんのパワーに圧倒されています。永国寺キャンパスが変わっても精神は変わらない。アイデンティティは大切だと実感しています！

▼平成23年度会計報告

(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

平成24年予算案▶

(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

○一般会計 ・収入の部(円)

項目	H23年度予算	H23年度決算	増減	備考
繰越金	5,360,800	5,360,800	0	H22年度繰越金
入会金	3,430,000	3,430,000	0	H22年度卒業生 14,000円×245名(230名学部生+15名院生<本学学部出身者を除く>)
利息	—	935	935	受取利息
奨学金返済金	600,000	475,000	-125,000	H23年奨学金返済 S02-1:12万円, S02-20万円, S07-16万円, S07-255万円, S08-1:12万円, S09-16万円, S09-26万円
前年度寄付金	400,300	400,300	0	H22年度寄付金
60周年誌販売	500,000	526,000	26,000	卒業祝い 262冊、販売 1冊
その他	0	1,250	1,250	ラベル印刷費
合計	10,291,100	10,194,285	-96,815	

・支出の部(円)

項目	H23年度予算	H23年度決算	増減	備考
総会費	会議費 50,000	25,000	-25,000	
旅行費	450,000	253,638	-196,362	代議員旅費
卒業祝	500,000	524,000	24,000	記念誌 2000円×262名
入学祝	100,000	114,450	14,450	タイタック記事：300円×X330名、型枠変更代
学生支援	800,000	860,000	60,000	奨学資金 500,000円×1名 社会人基礎力グランプリ 2012 交通費支援 36万円
支部強化	800,000	692,560	-107,440	支部総会開催補助、支部総会参加交通費
広報	1,000,000	727,800	-272,200	会報 45号 9,000部印刷費、校正料
会議費	100,000	59,300	-40,700	理事会弁当代、交通費
小計	3,800,000	3,256,748	-543,252	
事務費	300,000	265,522	-34,478	事務用品、封筒他
報償金	150,000	66,215	-83,785	会報発送に伴う学生アルバイト料
賃金	650,000	611,000	-39,000	6千円×X98日+時間外3h+賞与1万円×X2回
通信費	会報発送 600,000	559,629	-40,371	会報送費
その他	100,000	72,311	-27,689	振込料、電話、葉書、切手、送料等
小計	700,000	631,940	-68,060	
予備費	4,691,100	200,945	-4,490,155	南学長祝賀会補助、香典・供花：池川順子様、祝花：中山喜代子様
合計	10,291,100	5,032,370	-5,258,730	

次期繰越金 10,194,285-5,032,370=5,161,915

○特別会計

・基本金

項目	H23年度予算	H23年度決算	増減	備考
繰越金	14,542,153	14,542,153	0	H22年度
入会金	245,000	245,000	0	H22年度卒業生 1,000円×X245名(230学部+15院<本学学部出身者を除く>)
利息	—	59,638	59,638	
合計	14,787,153	14,846,791	59,638	

○在学生預かり金

項目	H23年度決算	備考
繰越金	16,580,528	H22年度
H23年度入学生	4,785,000	15,000円×319(学部生299+院生20)人
H22年度卒業生	-3,675,000	15,000円×245(学部生230+院生15)人
利息	51,554	
退学者返金	-75,000	15,000×5名
合計	17,667,082	

・平成23年度寄付金他(H24計上)

内訳	金額
H23年度寄付金(振込)	282,000
H23年度寄付金(現金)	0
その他(名簿売上)	4,000
振込手数料	-8,840
合計	277,160

●平成24年度しらさぎ会理事「敬称略」
名誉会長 南裕子(学長)
顧問 橋尾直和(文化学部)、田中きよむ(社会学部)。
顧問 永尾朱美、副会長 津野真千子、山重慶(理事) 宮田福、山崎美恵子、梶原和歌、川口順子、中岡道子、公文睦子、篠原宏美、岡村悦子、川村真美、彼末富貴、林昭子、鶴田和子、中澤寿美恵、坂本美和、西谷抄希子、(監事) 久保慶子、坂本ひとみ

住所変更については

同窓会事務局にもご一報下さい。事務局の☎とフックス 088(847)5606 事務局員勤務日は火・木・金の9時~13時です。

○在学生預かり金

項目	H24年度	備考
繰越金	17,667,082	入学生数 H21=254人、H22=302人、H23=319人
H24年度入学生	4,620,000	15,000円×308(学部生290+院生18)人<本学学部および研究科出身者を除く>
H23年度卒業生	-3,825,000	15,000円×255(学部生236+院生19)人<本学学部および研究科出身者を除く>
利息	—	
退学者返金	-375,000	15,000円×25人
合計	18,087,082	

24年5月1日 会計監査 坂本ひとみ

●退職(平成24.3.31) 生活化学部教授 大久保茂男。看護学部教授 谷脇文子、同准教授 益守かつき、同助教 池田恵美子、同助教 坂本章子、同助教 辻京子。健康栄養学部助教 古川弘子。文化学部教授 芝田不比人。●採用 高知県立大学(平成23.11.)社会学部講師 鳩間(ほとま)亜紀子。(平成24.4.1)地域教育研究センター教授 羽田行男。看護学部准教授 鈴木幹田行男。看護学部准教授 鈴木幹廣川恵子、同助教 大西ゆかり、同助教 川本美香、同助教 小松弓香理(ゆかり)。社会学部助教 石川由美。看護学部特任准教授 神原咲子。同特任助教 弘末美佐。(平成24.9.1)健康栄養学部助教 水島直子。

監査報告 領収書、出納簿、預金通帳等を監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

人事消息 (敬称略)

平成24年度 総会報告

平成24年5月19日(土)13時~16時10分
永国寺キャンパス管理棟2階会議室で



卒業生・修了生262名に対して、『高知女子大学開学60周年しらさぎ会誌 絆と証』を贈呈。④平成24年4月4日(水)入学式に永尾会長出席。新入生323名に「タイタック校章」を贈呈。

平成23年度の会計報告

西谷抄希子理事(会計)より会計報告、久保監事より監査報告。異議なく拍手をもって承認された。(平成23年4月1日~翌3月31日の会計報告は10面参照ください)。

平成24年度の活動計画

永尾朱美会長より資料に沿って説明がなされた。

- ① 会議①総会●平成24年5月19日(土)13時~16時。高知県立大学永国寺キャンパスで。②理事会
- ② 広報①会報「しらさぎ」46号。平成24年9月発行予定。
- ③ 高知女子大学発祥の地記念について●形になるような記念にしたいという思いで、この表現にした旨を説明。
- ④ 会員の管理●原簿の整理、新入会員入力。
- ⑤ 支部●平成24年度総会開催(予定)支部は、①高知県支部②愛媛県支部③徳島県支部④広島県支部⑤岡山県支部⑥京阪神支部⑦東海支部

- 1. 総会**
1. 開会の言葉 副会長 山重慶
 2. 名誉会長挨拶 南裕子学長
 3. 顧問紹介 橋尾直和先生
 4. 会長挨拶 永尾朱美
 5. 議長選出 香川支部 嶋村洋子
 6. 議事
 - (1) 報告事項
 - 平成23年度活動報告と会計報告
 - 平成23年度会計監査報告
 - (2) 審議事項
 - 平成24年度活動計画案と予算案
 - 会則改正
 - その他
 - (3) 協議事項
 7. 県立大学の近況報告
 8. 閉会の言葉 副会長 山重慶
- 2. 社会人基礎力育成グランプリ決勝大会参加報告**
- 3. 意見交換会**

会次第

第一部

代議員制が導入されて二度めの総会は、名誉会長の南裕子学長、顧問の橋尾直和先生をはじめ、代議員18名、23年度理事11名、監事1名、2名のオブザーバー平岩博子さん(岡山支部)、玉木道子さん(香川支部)を迎え、事務局を加えた34名が出席した。

平成23年度の活動報告

- 津野真千子副会長より資料に沿って説明がなされた。
- ① 会議 ①総会●平成23年5月21日(土)13時~16時。高知県立大学永国寺キャンパス管理棟2階会議室で、38名の出席者②理事会6/6~翌5/10までで計10回開催。
 - ② 企画 ①南裕子学長就任・ナイチンゲール記章受章祝賀会を平成23年8月6日(土)に城西館で。南裕子学長によるご講演「女子大から高知県立大への歩み」と、懇親会。(詳細は会報しらさぎ45号に掲載しています)。
 - ③ 会報「しらさぎ」第45号9,000部を平成23年9月25日に発行。
 - ④ 会員の管理①原簿の整理②新入会員入力。③平成24年4月末現在の会員総数10,359名。
 - ⑤ 支部●各支部の代議員と理事の出席による意見交換会を総会に次いで開催。詳細は11面、支部活動詳細は5面~。
 - ⑥ 学生支援①奨学金貸与●平成23年度は50万円を1名に。②生活デザイン学科の学生の社会人基礎力育成グランプリ2012決勝大会出場の交通費を援助。
 - ⑦ その他①平成23年9月22日(木)大学院学位授与式・修了式に永尾会長出席。②平成24年2月23日(木)高知県立大学法人設立記念式典に永尾会長出席。③平成24年3月19日(月)卒業式・修了式に永尾会長出席。

平成24年度 支部会員数 (H24年4月現在) 人

関東支部(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨)	500
東海支部(愛知、岐阜、長野、三重、静岡、新潟)	245
京阪神支部(大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、滋賀)	804
岡山県支部	278
広島県支部	180
山口県支部	62
香川県支部	461
愛媛県支部	573
徳島県支部	570
高知県支部	3,181
九州支部(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	535

- 全国会員の合計は7,693人。上記の支部会員数合計は、7,389人。この差の304人は、卒業生在住の都道府県に支部が無いような場合があるためです。
- しらさぎ会員は、総勢10,359人。全国会員合計7,693人との差2,666人は、国外在住者、住所不明者、故人などを表わします。

- ⑥ 学生支援 ①奨学金貸与●平成24年度50万円を1名に貸与計画。
- ⑦ その他 ①入学生に歓迎記念品贈呈②卒業生に記念品贈呈『高知女子大学開学60周年しらさぎ会誌 絆と証』
- 会則改正 について詳細は5面の最下段に掲載します。

第二部

社会人基礎力育成グランプリ決勝大会への

参加報告

生活科学部生活デザイン学科4回生から、土佐茶のブランド化「CHARARA」活動が報告され、「社会人力」大会では全国の88校108チームのうち決勝大会に進んだ8チームのなか、「会場特別賞」に輝いたことも紹介された。



パワーポイントを使い活動を詳しく紹介

試飲用 CHARARA を用意